

第3回姫川水系流域委員会でのご意見・ご質問への回答

令和7年10月27日
国土交通省北陸地方整備局
高田河川国道事務所

第3回姫川水系流域委員会でのご意見・ご質問への回答

	ご意見	回答
1	<p>姫川の土砂動態の調査について、横断・縦断の経年変化等の結果を用いて、砂利採取や土砂の洗掘・堆積箇所傾向を見せて欲しい。</p> <p>経年的に見たときに、土砂生産が大きい姫川ではどこで土砂の堆積が起きているのか教えて欲しい。</p>	<p>平成29年から令和5年までの期間を対象として、ALB測量成果から河床変動量を整理しているが、国管理区間では侵食傾向にある。ただし、一部では堆積傾向の箇所もあるため、今後もモニタリングを継続していく。(当日回答)</p> <p>(補足資料に土砂動態の経年変化を掲載)</p>
2	<p>流域タイムラインについて、一般の方々への周知や理解の促進を図るために、何か行っていることはあるか。</p>	<p>関係者に対しては、流域治水対策協議会を設置して情報の共有を図っている。一方、住民の方々に対しては周知や理解促進の取組が不十分であるため、今後も継続して防災教育等の取組を実施したい。(当日回答)</p>

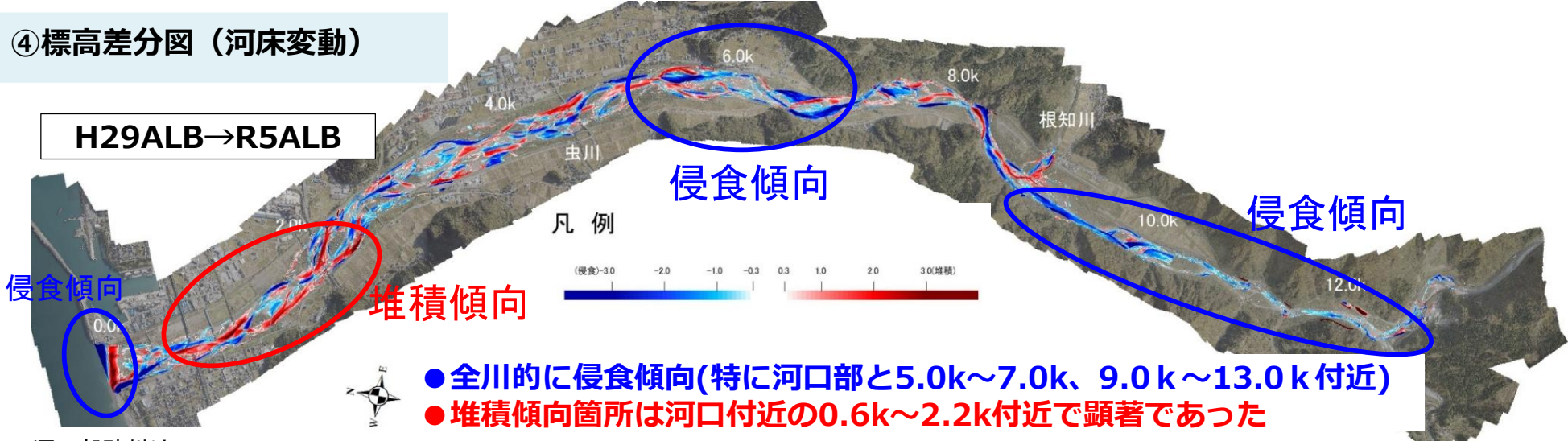
補足資料: 姫川水系国管理区間における土砂の動態傾向

①縦断方向の変動

- 複数年を経年した差分においては、侵食傾向の場所と堆積傾向の箇所があるが、土砂が2.2kより下流に移動し堆砂している状況にある。
- 近年は大きな出水がなく、上流から土砂が流れないため、姫川の国管理区間は全体的に侵食傾向が見られる。

[ALB測量成果等(図3)]

④標高差分図(河床変動)



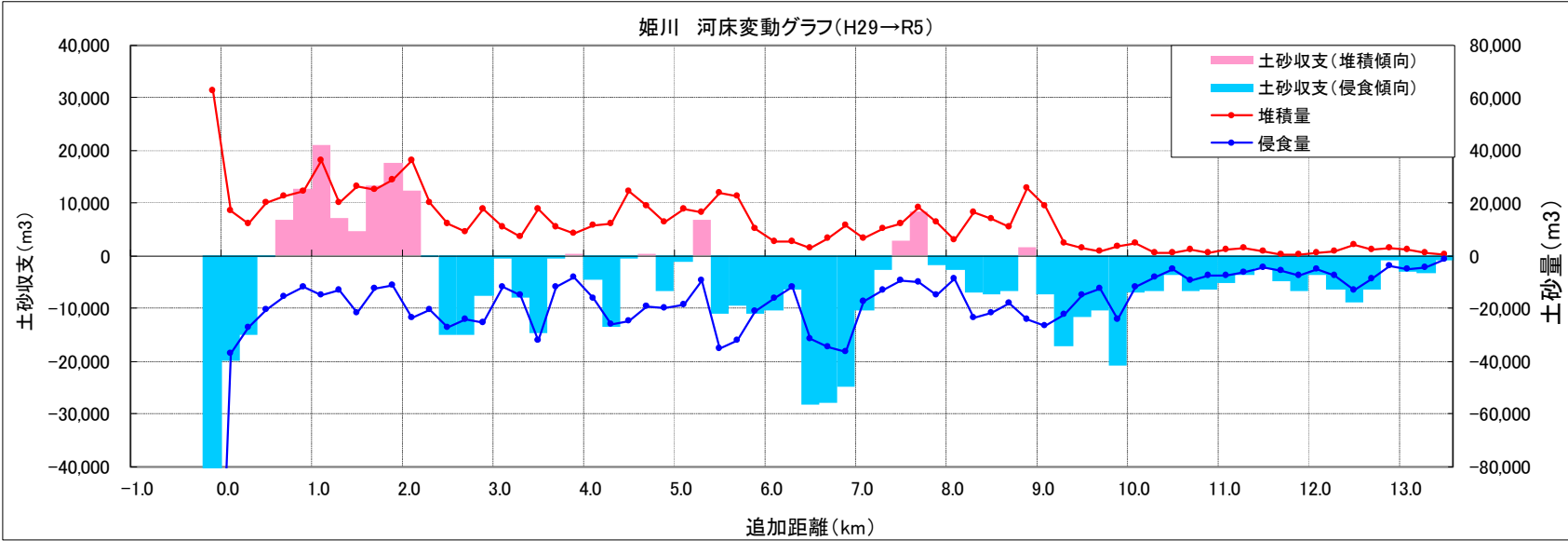
河口部砂州は
冬季風浪の影響が大きい

0~11.0k	総堆積量	766,269.1	総侵食量	-1,036,715.5	土砂収支	-270,446.4
0~13.6k	総堆積量	791,268.5	総侵食量	-1,117,325.6	土砂収支	-326,057.1

単位: m³

各年最大流量

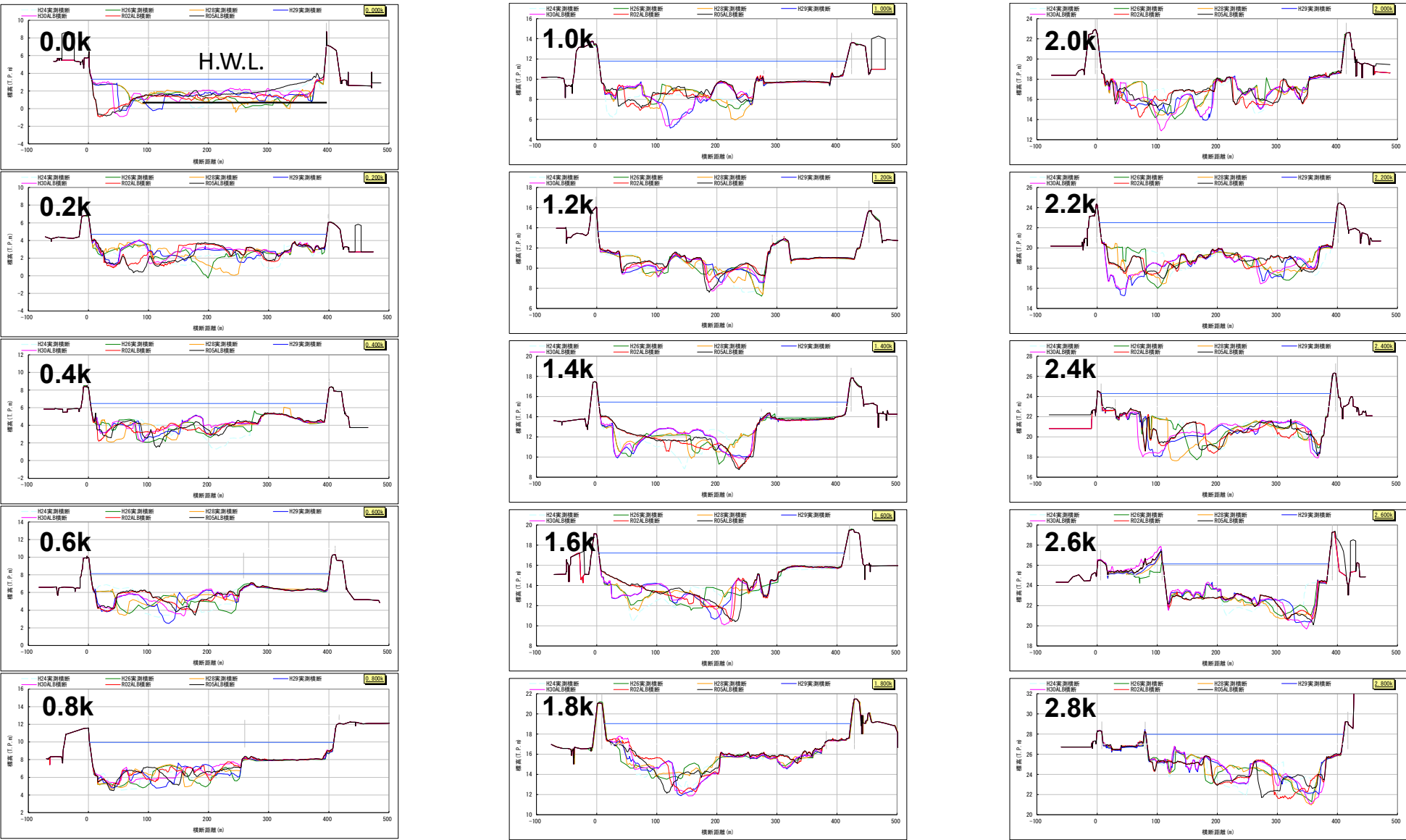
H29	1,281m ³ /s
H30	820m ³ /s
R1	1,451m ³ /s
R2	1,333m ³ /s
R3	707m ³ /s
R4	802m ³ /s
R5	528m ³ /s



- 急流河川であり、みお筋・砂州の位置が経年的に大きく変化する。右岸の高水敷部分以外は激しく変動する。
- 今井橋付近(2.4kから2.8k)については、右岸側にみお筋が集中することもあり、変動が激しい。

経年横断面図

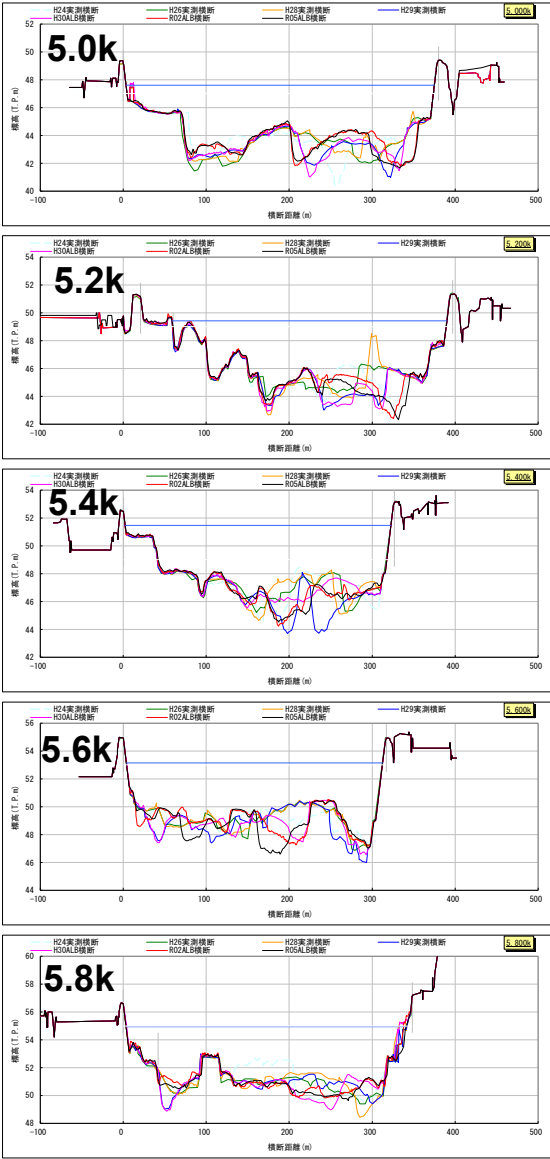
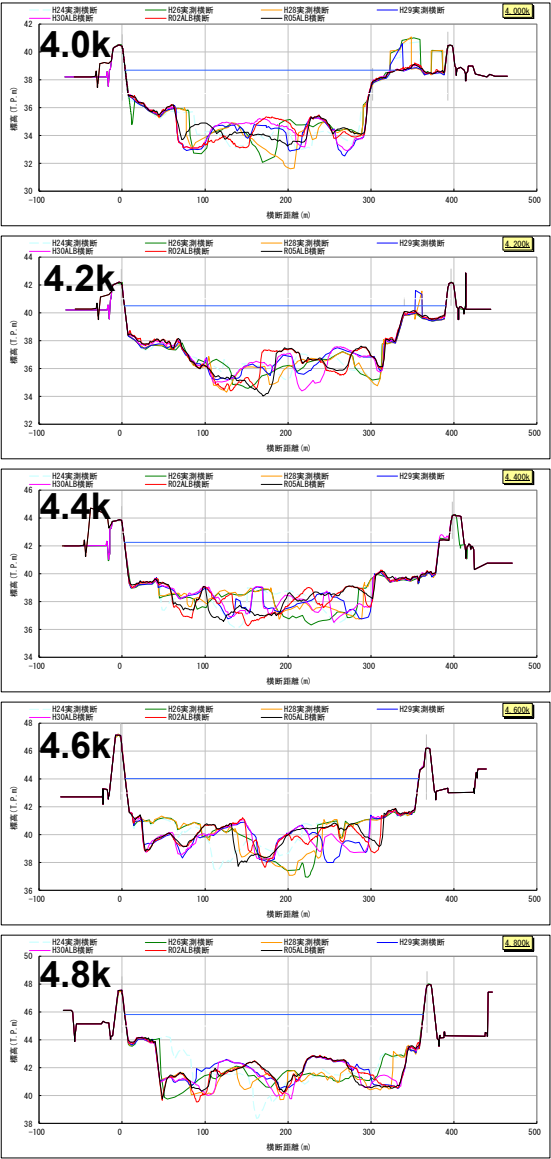
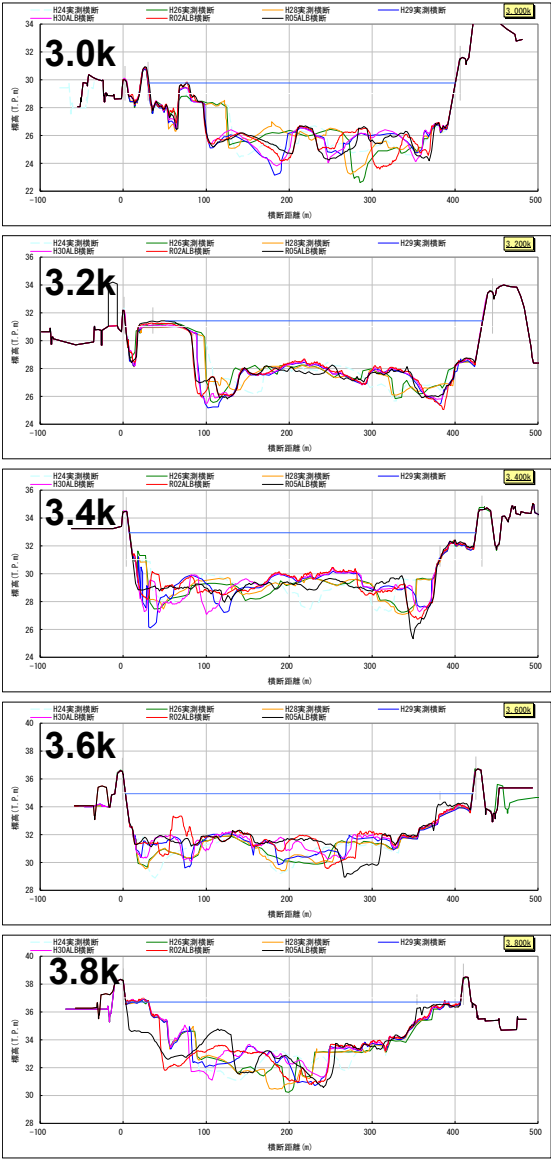
姫川国管理区間横断面図(1／4)



■急流河川であり、みお筋・砂州の位置が経年的に大きく変化する。

経年横断面図

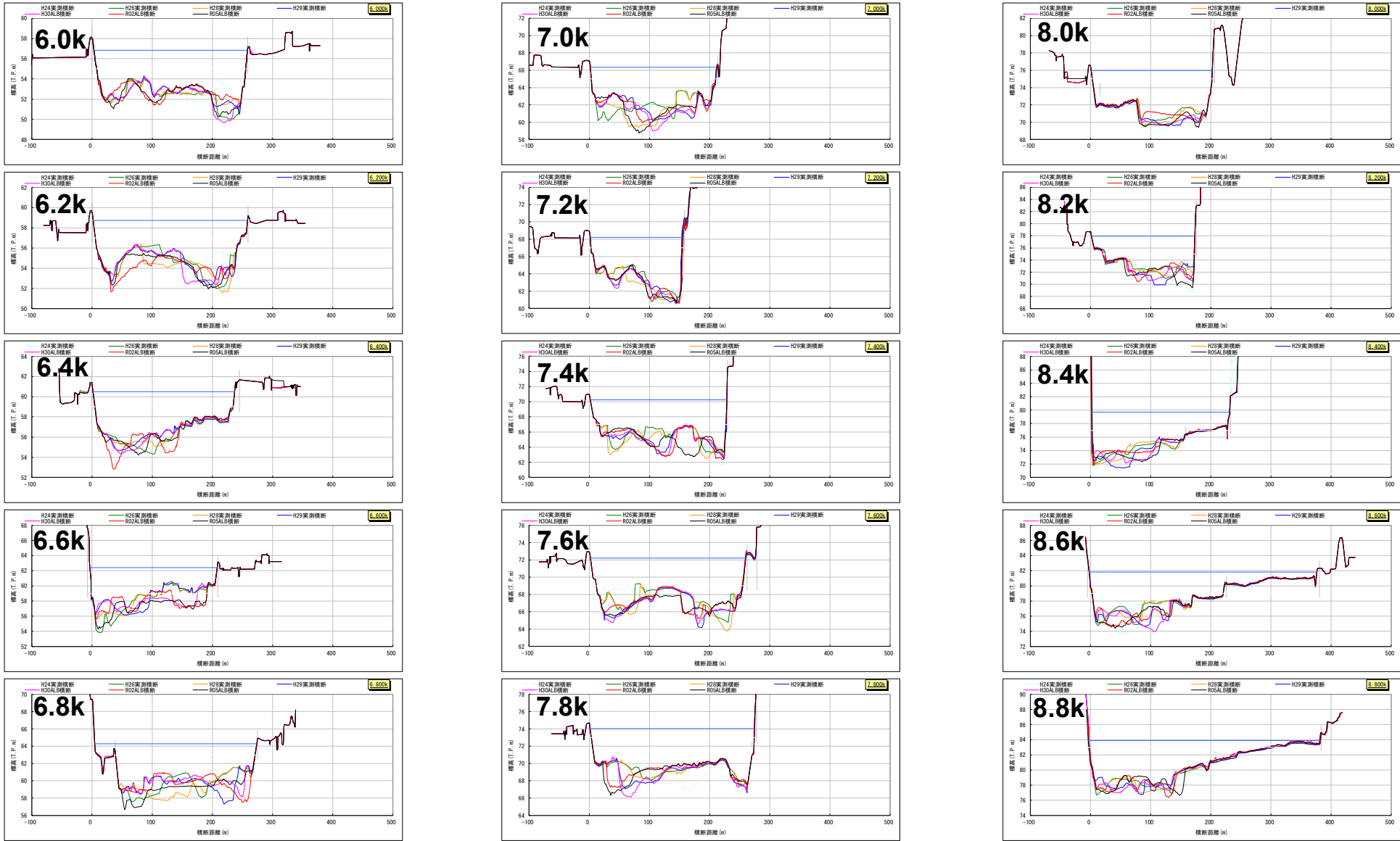
姫川国管理区間横断面図(2／4)



■急流河川であり、みお筋・砂州の位置が経年的に大きく変化する。

経年横断面図

姫川国管理区間横断面図(3／4)



経年横断図

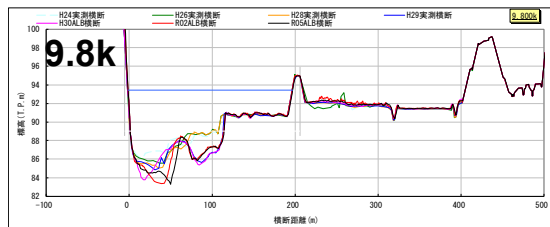
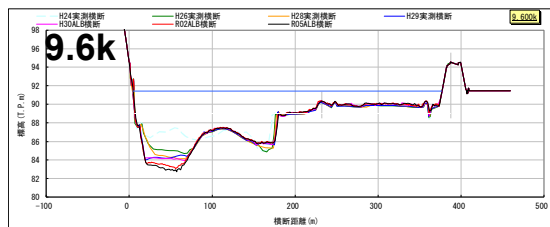
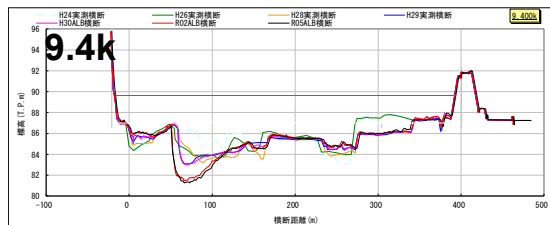
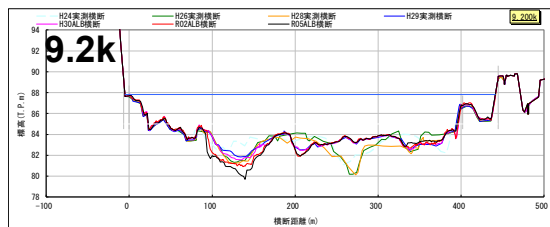
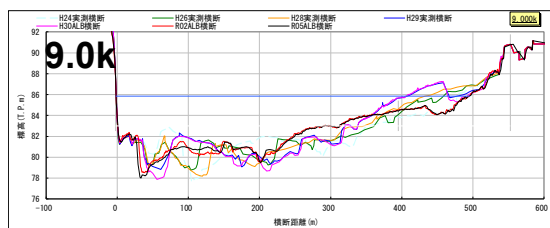
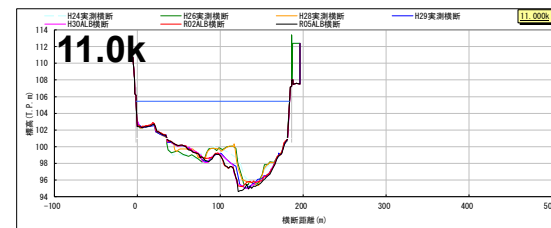
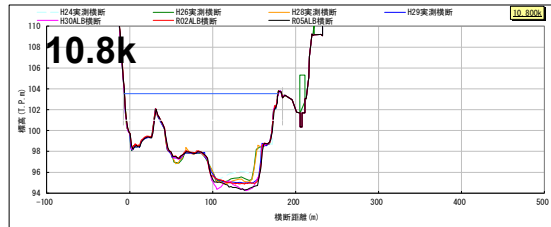
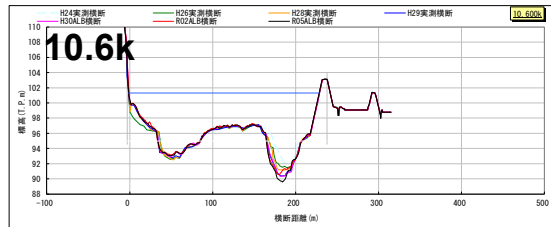
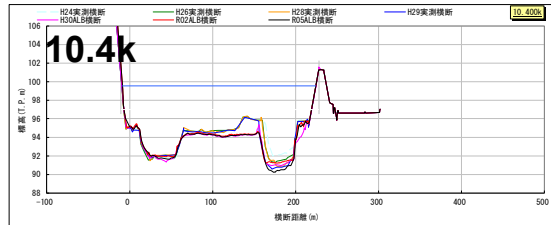
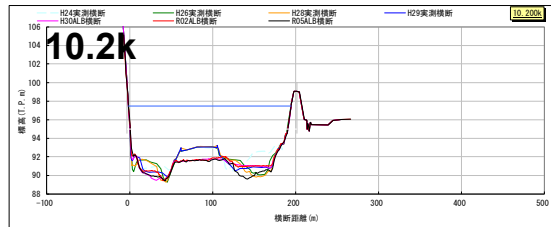


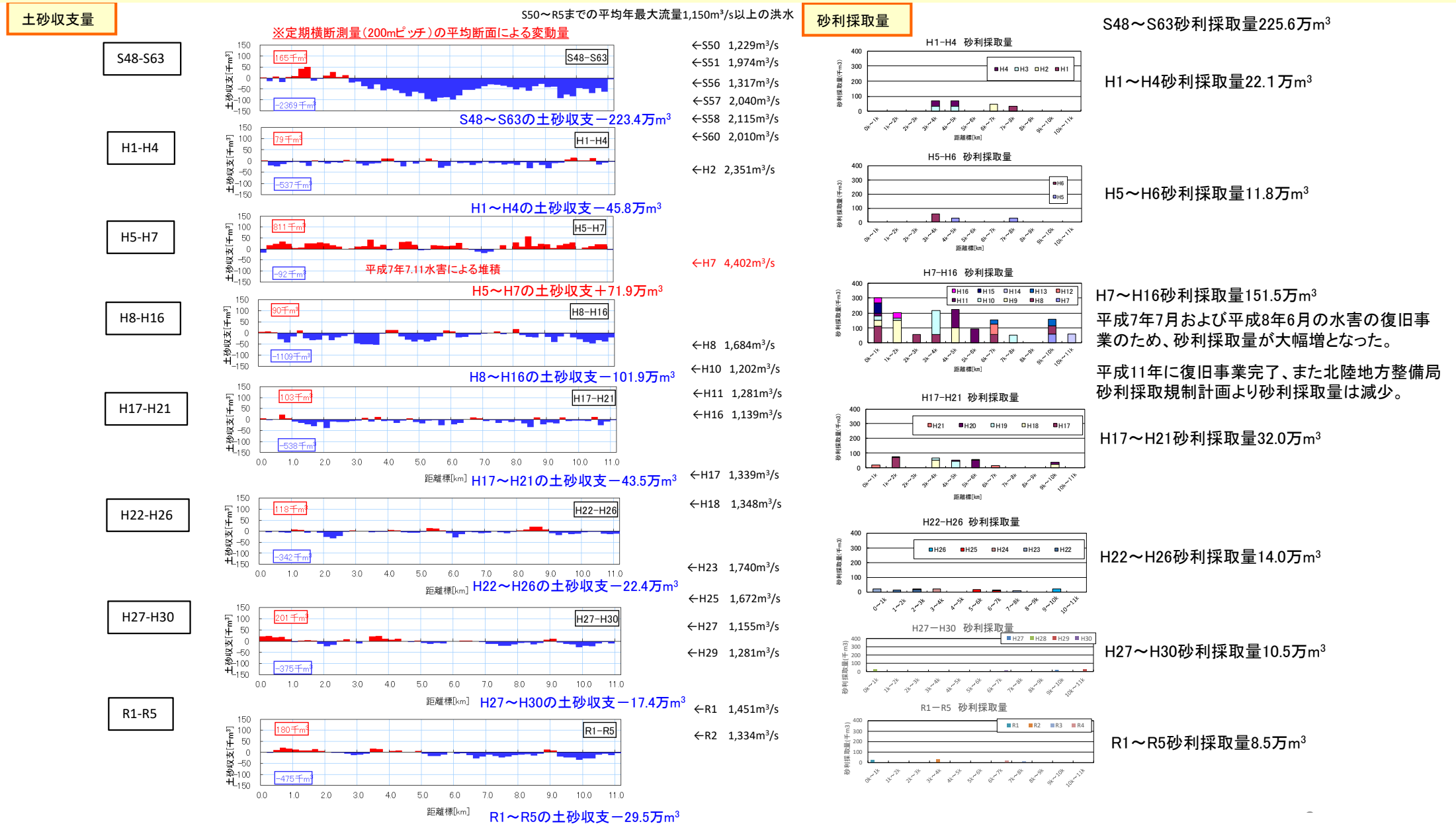
Figure 10.009 is a line graph showing the vertical displacement (mm) of the bridge deck at various measurement points (H24, H25, H27, H29) and the average displacement (RS24L, RS24R) across the bridge span (m). The graph shows a significant dip in displacement around 100m, reaching a minimum of approximately 86mm, and a sharp peak around 200m, reaching a maximum of approximately 96mm. The displacement is generally higher at the ends of the bridge span and lower in the middle.



補足資料: 姫川水系国管理区間における土砂の動態傾向

③土砂収支量と砂利採取量

- 既往最大洪水の平成7年7月洪水により、国管理区間内で約72万m³の土砂が堆積した。(H5-H7: 堆積量81万m³—侵食量9万m³)
- 昭和48～63年は、河積を確保するための砂利採取により河床が低下したと推察される。
- 直近の砂利採取量は少ないが、河道の土砂収支は侵食傾向である。近年は大きな出水がなく上流から土砂が流れないことが要因と推察される。



補足資料: 国管理区間(11.0k)より上流における土砂の動態傾向

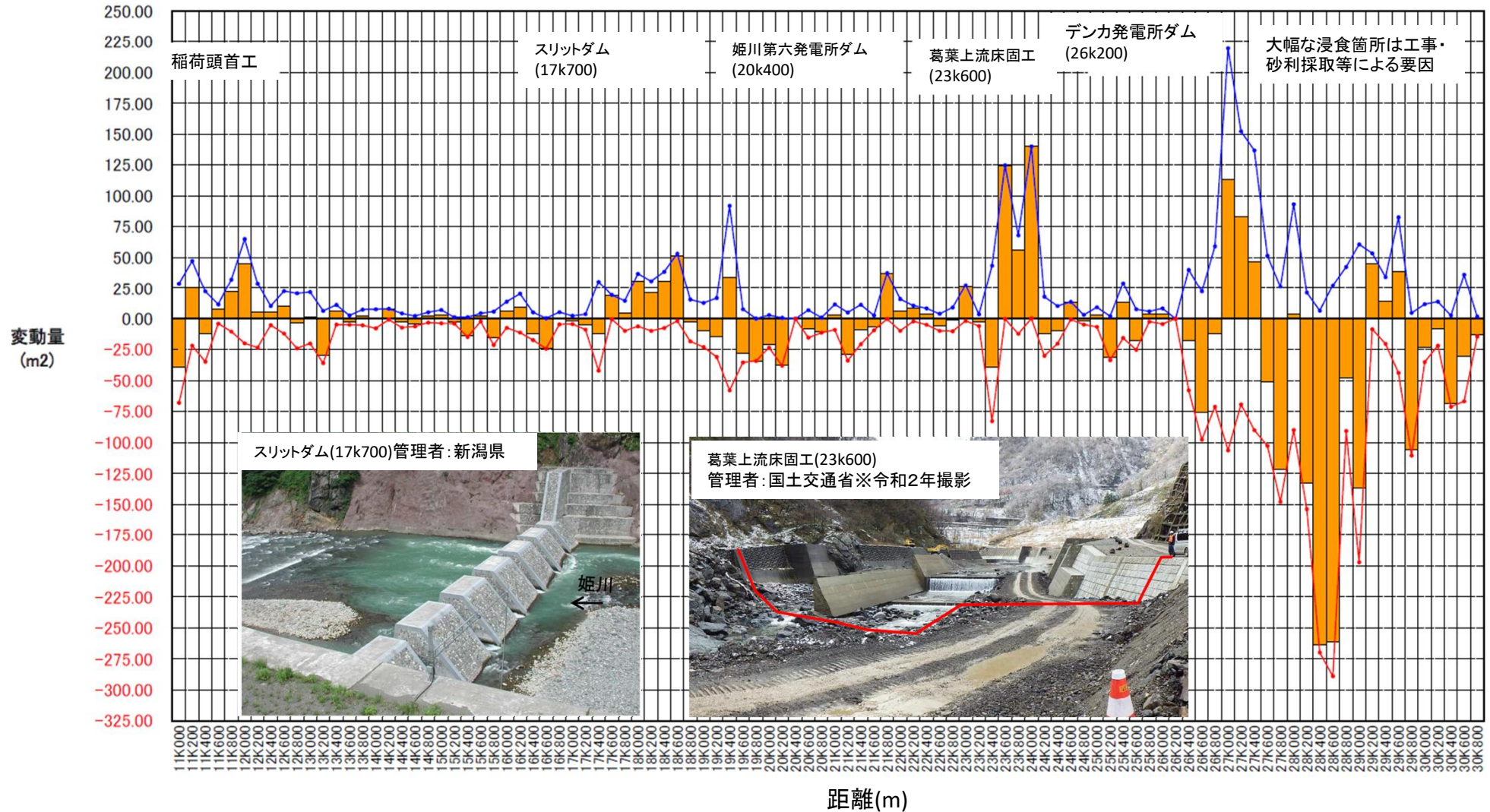
令和2年度 姫川河床変動観測結果(姫川)

堆砂量、浸食量の配色が前述資料とは異なる

河床変動量(m2) 堆砂量(m2) 侵食量(m2)

* 河床変動量は前観測との比較である
平成23年度→令和2年度

※黄色の河床変動量は差分



補足資料: 国管理区間(11.0k)より上流における土砂の動態傾向

令和2年度 姫川河床変動観測結果(姫川)

堆砂量、浸食量の配色が前述資料とは異なる

河床変動量(m2) 堆砂量(m2) 侵食量(m2)

* 河床変動量は前観測との比較である
平成23年度→令和2年度

※黄色の河床変動量は差分

